

## 1, 2号機廃棄物処理設備建屋ボイラ棟内ピットへの水の流入の調査結果について

平成 18 年 3 月 10 日  
東京電力株式会社  
福島第二原子力発電所

平成 17 年 12 月 21 日午後 8 時 26 分頃、1, 2 号機廃棄物処理設備建屋ボイラ棟地下 2 階（非管理区域）にある、ボイラのサンプリング水等を溜めて排水するポンプおよびタンクが設置されているピット内に水が流入したことを示す警報が発生し、当該設備の委託運転員\*<sup>1</sup>が現場を確認したところ、ピット内に水（非放射性）が溜まっていることを確認しました。流入した量については約 40 リットルと考え、当社へ連絡の上、翌 22 日に排水することとしましたが、翌 22 日にピット内を再確認したところ、水量が約 520 リットルであることを当社社員が確認しました。

（添付「系統概略図」参照）

ピット内に水が溜まっていた原因は、当該ポンプ軸受の潤滑水が排水配管の詰まりによりタンクに排水されず、ピット内に流入したものと推定しました。

ピット内の溜まり水は、当該タンクへ排水するとともに、詰まった排水配管の清掃を実施しました。

今後、排水配管が詰まった原因等について調査し、必要な措置を講じます。

なお、これによる外部への放射能の影響はありませんでした。

（平成 17 年 12 月 22 日お知らせ済み）

排水配管が詰まった原因について調査したところ、当該排水配管は曲がった構造になっており、錆等の汚れにより閉塞しやすくなっていたことを確認しました。なお、廃棄物処理設備建屋にある他の排水ポンプの排水配管については直管構造であり、閉塞が無いことを確認しました。

また、溜まり水について調査したところ、当該ピット内に溜まっていた結露水\*<sup>2</sup>に当該ポンプ軸受潤滑水の流入水が加わったものと推定しました。警報発生時の量と翌日確認したピット内の水量に相違が見られた原因については、現場を確認した当該委託運転員からの報告が「溜まり水は深さ 10cm 程度」と深さのみであり、過去に他のピットで結露水により警報が発生した際の排水処理量が約 40 リットルであったことから同程度の事象であると判断したものでした。

これらのことから、当該排水配管については閉塞しにくい直管に近い構造に変更するとともに、ピットの結露水については、計画的に確認・清掃することとします。

また、溜まり水等の確認および報告は、「縦×横×深さ」で確実にを行うよう事例検討会で周知し、徹底します。

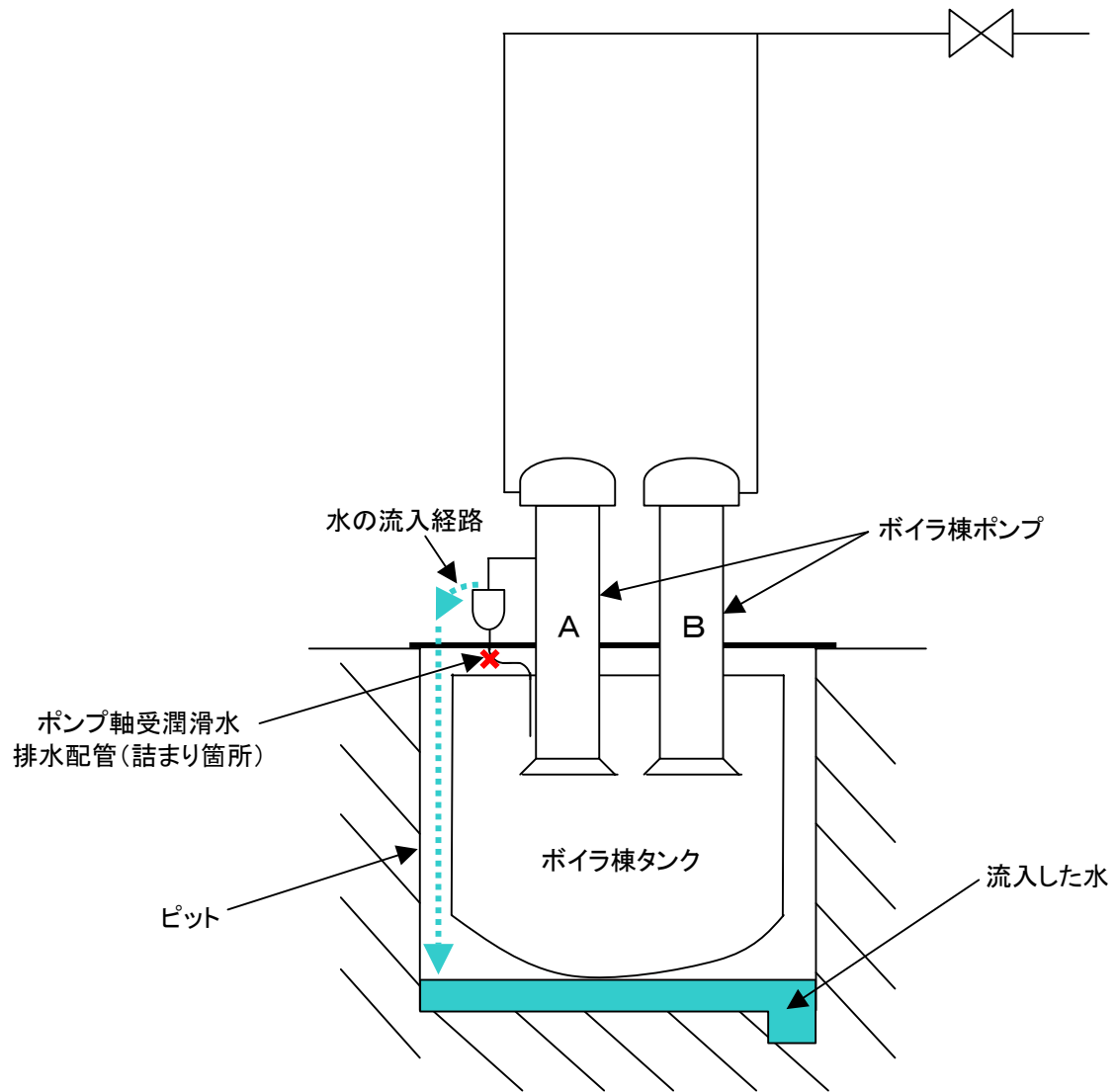
以 上

\* 1 : 委託運転員

当社から廃棄物処理設備の運転を委託している協力会社作業員。

\* 2 : 結露水

タンクに流入する水が温水のため、ピット壁面等に結露水が発生する。



系 統 概 略 図